

たいにい・ぼっくすつうしん

Vol.68

令和2年
11月11日

拍手ではなく、エールを！

朝夕の冷え込みと、紅色に変化した葉や落葉を見ると、年の瀬に向けて変わりゆく季節を感じます。おかげさまで“たいにい・ぼっくす あさひ”は開所して一年が経過しました。今ぐらいの時期、毎朝公園から舞い落ちる落葉を掃除することを日課としていたのを思い出します。

私の次女の主治医が来年に異動することとなりました。主治医が変わることに抵抗があり、「娘の診察のために月に1回は戻ってきてください」とお願いしましたが、どうも、そうはいかないようで…。開業しようか悩んでいた主治医でしたが、大きな法人に属することで“継続したサービス提供”と“医療の発展”ができることは志を高められるようです。羨ましい、と素直に嫉妬です。

まず“継続したサービス”について。医療職と違い、就職先が決まらない人の終着点と揶揄されるの福祉職は、自身の仕事について理解と信念を深める人材は希少で、上手く育たない。信頼と実績を築いても、働く人が変われば、理解も信念もない福祉従事者によって一瞬で無になり兼ねず、大きな法人で多くの人員を必要とすればするほど、そのリスクは比例して大きくなります。どの法人がやっているかではなく、誰がやっているかが重要となります。つぎに“福祉の発展”。共生社会が成立した社会とは、福祉という言葉を使わなくても全ての人が不自由なく生活できる社会ではないかと思うのです。福祉施設が求められたり増加する傾向は、福祉が発展したと評価はできません。過去5年で放課後等デイサービスは2倍3倍4倍と増えましたが、児童福祉はどのくらい良くなったのでしょうか。先月の通信で発信した内容のように、インクルーシブが加速したとは言えず、むしろ停滞をまねいている要因とも指摘できます。

ご家族より感謝の言葉が届くことがあります。心に抑え込んだ悔しさや諦めのほんの一部しか満たすことは出来ていないと、まだまだ足りない、まだまだ頑張らなくては、と感じることも多くあります。なので、未来に繋げるために頑張る医療・福祉従事者に、もっと勉強して、もっと信念を抱いてと、拍手（感謝）ではなくエール（応援）をください。異動される主治医のK氏に、私はエールを送ります。

たいにい
のようす

写真掲載欄のため、内容を削除しております。

事業所見学訪問月間について

毎年11月度は事業所見学訪問月間として、子どもたちがどのように過ごしているか保護者様に訪問していただく月としていましたが、今年度は見送りとさせていただきます。活動の様子が知りたい等、ご希望がありましたら各事業所スタッフまでご要望ください。

12月の予定

クリスマス会

他、冬季長期休暇計画書参照
※毎月のおやつ作りは中止します

12月 休業日

5日6日
12日13日
19日20日
26日27日
29日30日31日

